

## 豊山町子ども・子育て会議議事録【公開用】

1 開催日時 令和4年3月4日（金）午後1時～午後3時

2 開催場所 豊山町役場3階 会議室3・4

3 出席者

(1) 豊山町子ども・子育て会議委員（敬称略）

委員 愛知学泉大学現代マネジメント学部 教授	堀田 裕子
小児科医師	野崎 千佳
天使幼稚園	今野 真紀
社会福祉協議会	岡島 清隆
民生委員協議会	山本 佐知子
保育園父母の会	松下 めぐみ
グループゆめっこ	村瀬 三恵子
公募	竹内 智恵子

(2) 事務局

町長	鈴木 邦尚
生活福祉部長	日比野 敏弥
福祉課長	林 真吾
指導保育士	小辻 紀代美
福祉課 子育て支援係長	牧野 礼男
福祉課 子育て支援係 主事	大河内 咲帆

4 欠席者（敬称略）

母子寡婦福祉協議会	石黒 善美
子ども会連絡協議会	坪井 貞子

5 議題

(1) 第2期子ども・子育て支援事業計画の取組状況について

6 会議資料

- ・豊山町子ども・子育て支援事業計画の取組状況
- ・病児・病後児保育について
- ・令和4年度予算 子ども・子育て施策について

- ・参考資料 豊山町子ども・子育て支援事業計画（抜粋）

## 7 議事内容

### (1) 会議の開会

**【福祉課長】** ただ今から、豊山町子ども・子育て会議を開始する。  
はじめに、本会議の議事録についてご説明する。

町では、情報公開の一環として、審議会や委員会等の議事録を、町のホームページに掲載している。本会議もその対象になり、どのような論議がされたか、要旨を抜粋して、議事録をホームページに掲載させていただく。

### (2) 委嘱状伝達（補欠委員のみ）

### (3) 町長挨拶

**【町長】** 日ごろは、町行政各般にわたり、格別なる御理解と御協力を賜り、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

新型コロナは依然としてオミクロン株が猛威を振るっており、子どもたちがたくさん感染しているので憂慮している。3回目のワクチン接種を進めており、本町は高齢者の希望される方についてはほとんど完了している。今月から5歳から11歳の接種券を発送させていただく。

コロナによる先の見えにくい社会情勢が続く中、本町では、子育てに対する不安感の緩和と子どもの健やかな成長を支援する体制を強化するため、来年度、生活福祉部内に「子ども応援課」を新設する。これにより、現在、教育委員会で所管している「放課後子ども教室」と「子ども会」に関する業務を移管し、子育て支援業務の一元化を行い、サービスの向上を図ってまいらる。あわせて、子どもとその家庭・妊産婦などに対して、専門的な相談対応や必要な調査、訪問等による継続的なソーシャルワーク業務を行う「子ども家庭総合支援拠点」を設置する。妊娠期から子どもの社会的自立にいたるまでの包括的・継続的な支援を行っていく。

年度途中の待機児童対策として、青山保育園に0・1歳児保育の開設を、それから、病後児保育の豊山保育園での開設を行う。病児保育については、引き続き町内・町外の医療機関に協力依頼をしてまいらる。

本日の会議は、忌憚のないご意見をいただくようお願い申し上げます。

**【福祉課長】** 町長は他の公務のため、ここで退席させていただく。

### (4) 自己紹介（補欠委員のみ）

(5) 議題

【福祉課長】 本日の出席委員数は、10名中8名であり、豊山町子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定に基づき、半数以上の出席があるので、本日の会議は成立していることを報告する。

ここからの議事進行は、会長にお願いする。

【会長】 議題「第2期子ども・子育て支援事業計画の取組状況について」、事務局より説明を求める。

【係長】 (資料 説明)

【会長】 ただいまの事務局の説明に対して、意見・質問があればお願いしたい。

【A委員】 4点、質問がある。1つ目は、9番の事業のおしゃべりテラスに男性の参加者はどれくらいいるのか。

2つ目は、10番の事業の令和2年度から令和3年度までに4千人増えているが、これは指定管理者制度の効果なのか。

3つ目は、12番の事業について、産後ケア事業に利用実績がないようだが、事業はどのようなものか。

4つ目は、資料3の子ども応援課の創設について、豊山保育園に看護師を配置することだが、どうやって人材を確保するのか。

1つ確認として、11番の事業の拒否家庭には、健診とか電話で確認していることだが、それで拒否家庭についてはカバーできているのか。

【福祉課長】 1つ目について、この行事は毎月開催しているもので、今年度1回だけ、夫婦でおみえになった方がいる。ただ、基本的にお母さんと子ども、とくに乳児を連れてこられて、交流スペースで交流している。ここ最近の取組として、おしゃべりテラス開催時に、古着などのバザーをボランティア団体の方に来ていただいて実施している。

【A委員】 今、男性の育児参加が重視されている中で、おしゃべりテラスというところに、男性がちょっと行ってみようという気持ちになるかという、やはり夫婦一緒でないと、行こうという気持ちに男性はならないかと思う。

【係長】 2つ目の、児童館の人数増加について、令和2年度の数字は、新型コロナウイルスの影響が大きく、少なかった影響が大きい。

【福祉課長】 あとは最近、SNSで乳幼児イベントなどを発信している。

【係長】 3つ目、産後ケア事業について、今のところ実績はない。生後4か月未満の乳児と母親で、家族から十分な家事、育児等の援助を受けることがで

きなくて、かつ、心身の不調や、育児不安がある産婦に対して、産婦人科の方で宿泊をしたり、日帰りをしたりして、ケアを受けることができる制度である。家族から十分な家事、育児等の援助を受けることができないという点で、お話をしていく中で、結果的に、身寄りの方がケアをするということになる事例が多かった。

**【福祉課長】** 4つ目、看護師について、夏の職員採用試験で常勤の看護師を1人採用できた。病後児保育を立ち上げ、空いている時間の時は例えば乳幼児を手伝う形でケアすることを考えている。

最後の拒否家庭の話については、保健センターの事業のため、把握している限りの話となり申し訳ないが、健診時に接触している。また、母子保健推進員が定期的に接触している。拒否があったらそれで終わり、とはしていない。いつ訪問したけど不在だった、などと記録している。健診が近づくと、直接推進員が訪問して案内している。常に乳児の間のケアを続けている。

**【B 委員】** 病児保育は、施設整備が必要である。もし予算が確保できるなら、町から補助があるとよい。利用者がいたりいなくなったりでは、人を雇う余裕はどこにもない。コロナウイルスもあって、病後児保育事業はより難しい。昨日は鼻水で今日は熱、明後日になったらコロナウイルス感染症だったということがあり得るので、そういう点も職員を雇うのをより難しくしている。

**【福祉課長】** 病児保育については、従前から実現に向けて精査・検討はしているところである。施設の確保、看護師・医師の確保が課題である。今回、他自治体に立地している病児保育所の紹介をすることとしているが、市民以外の方は料金が高いという課題がある。今後も検討は続けていきたい。

**【B 委員】** 産後ケア事業の利用料金はいくらか。

**【係長】** 一般の世帯はショートステイ型、宿泊型で1回当たり3,000円、デイサービス型、日帰り型は2,000円である。

**【B 委員】** 情報があまり周知されていないのでは。知らなかったのが、周知されれば使いたい人も多いと思う。料金が高いかなと思っていたが、思ったよりも安かったので、どんどん広めていくと利用しやすいと思う。

**【C 委員】** 産後ケア事業のショートステイやデイサービスを利用するにあたって、最初に周りの人からこのご家庭は大変なんじゃないかという診断からが

スタートという話だったが、本人が「苦しい、大変」と言ったら利用ができるのか、本人が言っても周りの人を見て何とかなるんじゃないと言ったら使えないのか、そのあたりの線引きはどういう風なのか。

【係長】 要綱があり、その要件に該当するかどうかを客観的にみて判断するので、本人からの申し出は1つの材料になって、そのほかに聞き取っていく中で家族の状況とか、本人の健康状態を踏まえて対象になるかならないかを町の方で判断している。

【生活福祉部長】 保健センターの事業のため、福祉課で答えづらいところを補足させていただく。産後ケアについては、医療機関とも連携して、情報が伝わるようにしている。

【C委員】 出産後は予期していなかった体の変調をきたすことがある。家族の事情も、想定とは異なる場合がある。こういう制度がありますよという案内は、不安要素のある方に申し上げているのか、そういうのがあってもなくてもこういう制度がありますよ、と案内がされているのか。

【生活福祉部長】 母子手帳を発行するときに、町のサービスについては説明している。一覧をお渡ししている。

【C委員】 その中に産後ケアのデイサービスやショートステイもできます、と入っている？

【生活福祉部長】 入っている。

【福祉課長】 妊産婦から切れ目なく子ども応援課でケアができるように、新体制のもと、取り組んでまいりたい。

【D委員】 子ども応援課は現在と同じ場所になるのか。

【福祉課長】 福祉課に、障がい福祉・生活困窮者・民生委員の関係を行う福祉係と、もう一つ、今ここにいる子育て支援係の2つの係がある。新しい組織になると、2つに分かれて、子育て支援係の方が新たに子ども会・放課後子ども教室の機能を加えて1つの課になる。福祉係の方は福祉課に残る。場所は今のままを想定している。

【D委員】 相談の窓口はそこにいくことになるのか。交流スペースというものを作るそうだが、もうできているのか。

【福祉課長】 役場で手続きをする際に、子どもが遊べる場所を福祉課の前に設けたい。お母さんは窓口で事務的なことをやって、職員の増員もあるので、例えばそこで子どもが泣いている場合は、指導保育士をはじめ、保育士とか

が、子どもの相手をするというのともあわせてやっていきたいと思っている。

【D 委員】 細かい事が分からなかったが、イメージができた。また、来年度から病後児保育を始めるということで、助かる。

【C 委員】 病後児保育について、豊山保育園の中に、設置されるということは、ほかの富士保育園・青山保育園で具合が悪くて、回復期ですとなったら、豊山保育園に保護者が連れていく。それは別に保育料とかが変わったりしないか。

【福祉課長】 そのあたりの制度設計を検討しているところである。10月を予定している。

【B 委員】 小学生も対象か。

【係長】 小学6年生まで対象の予定である。

【福祉課長】 スペースの確認もあるので、定員も含めて豊山保育園の施設の中で設置を検討している。職員室の裏に医務室があるので、そこにベッドの整備などを半年かけて行い、10月にスタートを検討している。

【C 委員】 お金が高いと、何のために仕事に行くのか訳が分からなくなってしまう場合がある。仕事を続けるために子どもを預けていくみたいになってしまう。どうなのかなと思う。

【E 委員】 産婦人科が、豊山町・北名古屋市・清須市のあたりで減ってきている。妊娠したけど、病院が遠い、車も乗れないから大雨の時にバスで行かないといけない、という問題がある。町から誘致などにも取り組んでもらえるとよいのではないか。

【福祉課長】 医療機関の関係については、保健センターの方にも伝えておく。

【D 委員】 病後児保育のことについて、豊山保育園の1か所だけに設けるといことは、富士保育園・青山保育園の園児は豊山保育園に移動して、保育してもらおうということでもいいのか。

【福祉課長】 申請をしていただいて、その日は豊山保育園に行くということになる。

【F 委員】 すごくたくさん子どもたちのことを考えて政策を考えてくださっている。産後ケアについて、情報が知らなかったことがあったりとか、相談窓口がありますよ、というのもあるが、ほんとに悩んでる方ってそこに一足運ぶのもつらいと思う。友達にもなかなか言えなかったり、家族だからこそ言えなかったりとか、今の人たちが、情報を簡単に手に入れられて、窓

口への敷居ができるだけ高くないような体制を作ってくださいとよい。スマホをうまく活用して、子育ての世代のお母さんもうスマホは抱っこしていてもなんでもできちゃうし、抱っこしながら広報読む人はあんまりいないと思うが、スマホならさわられる方も多いと思うので、発信するのも受け取るのもそういうので気楽にできるとよい。保健センターで紙を配っても、すべてに目を通すことができるお母さんはすごく少ないと思う。私も読んでる余裕がなかった。横になりながら紙を読むのは大変だけど、スマホは横になりながら見られる。相談もしやすい。もっとそういうものを駆使して、お母さんたちがうまく、情報を手に入れて、自分たち気持ちもうまく伝えられるものが整っていただけたら、お母さんたちにとってもっと心強いのかなと思った。そういった面でもいろいろ考えていただけるとありがたい。

**【福祉課長】** 今回子ども応援課ができるにあたって、いろいろ考えていく中で、他市町の事例を見ていくと、ラインや子育てアプリとかいろいろなものがある。そういうものを我々としては今後考えていきたいと思う。他市ではラインでいろいろな子育ての部門に自分で行けたり、相談ができたりとかしている。そういう事例を見ていると、確かに、いまラインだったらみなさんたいがいやられているので、接しやすいとか、そういうことは係内で話し合っているんで、いま、令和4年度はまずこういう段階ではあるが、情報提供とか、こっちからプッシュするだけでなく、受ける側も含めて考えていきたいと思っている。

**【会長】** 他に意見・質問があればお願いしたい。

各委員 (特になし)

**【会長】** 本日の議題については、以上である。

(8) その他

**【福祉課長】** それでは最後に、その他について。

**【D委員】** もっとボール遊びができる場所を、グラウンドが空いている時に時々子どもたちに開放をすることは1日でも、1時間でも、できないのか。

**【会長】** ボール遊びどこでやるんだと問題になる。

**【D委員】** 子どもたちも注意されるばかりで、やる場がない。あそこしかない。

**【C委員】** 小学校に、ドッジボールを見に行くと、子どもたちがどんだけボールが投げれないのかと思う。手を放すタイミングが分からなくて、地面に投げ

たりとか、すごく向こうの方に行ってしまったりとか、そもそも投げれなくて、落ちちゃったりとか、理屈じゃなくて、やって体に覚えさせる動きを子どもがやっていないから、できない。

【D 委員】 学校でやらないから、外に出ないといけないから、お母さんたちも大変。町内にスペースがないわけではない。

【福祉課長】 教育委員会、生涯学習課を含め、公園の管理の問題もあるので、町全体で考えさせていただく。意見としてうけたまわる。

【D 委員】 子どもたちが、動く場所がなくて、コロナウイルスで出られなくて、イライラしている。

【福祉課長】 様々な意見をいただき、感謝申し上げます。

子ども応援課ができますので、皆さんの意見を聞きながら、応援をしてほしいという気持ちも、我々も頑張っていきますので、よろしく願いいたします。

以上をもって、豊山町子ども・子育て会議を終了する。